

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式と記述式の併用 選択式(39)・記述式(10)・論述式(0)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は4題で昨年度から変化はなかった。解答すべき問いの数は49で昨年の44から増加した。今年度は、字数指定がある論述問題や略称表記の英語正式名称を求める問題が出題されなかった。

出題の特徴

大問4題中3題が経済分野からの出題であり、昨年度と同様に経済分野を重視しているという特徴がみられる。とりわけ第4問に多く見られるように、基本知識を現実の動向にあてはめて推論していく問題が多く見られる。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 記述	日本国憲法における平和主義	全体的に基本的な知識を試す問題が多い。問4と問5では2015年に制定された安全保障関連法について、問6では防衛装備移転三原則についてやや細かい知識が問われているが、早稲田大学を受ける受験生であれば覚えておきたいものである。	やや易
II	選択 記述	国民所得、企業と市場	全体的には基本的な問題が多く設問レベルとしては「易」であるが、論理的に考える必要のある問題もあるため、取り組みにくいと感じた受験生もいたかもしれない。問2は、GDPを算出する問題であるが、そのためには、小麦農家、製粉業者、パン工場の三者がいずれも国内の経済主体であり、かつこれ以外に経済主体が無いという条件が必要である。問7の比較生産費説の問題は、比較優位に加えて絶対優位の考え方を知っておく必要がある。	易
III	選択 記述	世界経済の発展と所得の変化	知識を組み合わせながら統計グラフを読み取る力を試す出題が多く、全体的に取り組みにくいだろう。問9の正解である(オ)は、「最も」の意味次第で誤答とも解釈できそうなので、選ぶのをためらった受験生もいただろう。それに加えて、グラフ、問題文、選択肢の表現をそれぞれどう理解するかによって、(ア)(イ)(ウ)のいずれも正解になりそうなので、取り組みにくい難問であった。	やや難
IV	選択 記述	経済総合(市場、為替、労働など)	全体的には取り組みやすい問題が多いが、問4、問5は株式会社について細かい知識が問われている。問8も迷う受験生が多いかもしれないが、「国債の発行市場」という表現に注目できれば、「日銀引き受けの禁止」という基本知識に照らして誤文であると判断することができる。問11で問われている三六協定の届け出先というのは見落としがちな知識かもしれないが、労働基準法の監督機関は労働基準監督署であるという基本知識から正解を導くことができる。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## 地歴公民<sub>(政経)</sub>

早稲田大学 商学部 2/2

### <学習対策>

学習にあたっては、まずは教科書レベルの知識を確実に習得することを心がけてもらいたい。基本的な知識を正確に説明できるようになれば、新聞やテレビなどのニュース報道への理解が深まるので、より多くの知識が習得できるようになる。また本学部では経済分野からの出題の比重が大きい傾向が見られる。出題可能性が高くなってきているグラフ読み取り問題や、他の受験生と得点差が付きやすい計算問題を解く力を身に付けるためには、資料集の活用が必須である。出題傾向を把握するために過去問には必ず目を通しておこう。